

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

## “テロリストに乘っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』連載第2回

# 元運転士が驚愕の実名告発!

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月24日発売号>

### 本誌中吊り広告を掲示拒否

前号で、JR東日本・現役最高幹部の命がけの内部告発を報じた。この記事に対し、JR東日本側は、本誌の中吊り広告(車輦内広告)の掲示を一方的に拒否。JR東日本と相互乗り入れをしている『東京メトロ』(東京地下鉄株式会社)も「掲出見合わせ」の意向を伝えてきた。かくして、本誌前号の中吊り広告は、JR東日本、東京メトロ車内から姿を消し、両社の利用客は、JR東日本の重大な問題が、本誌に掲載されていることを知る機会を奪われたのだ。まさに12年前の、「週刊文春販売拒否事件」を髣髴ほうふつとさせる出来事だった。『週刊文春』は'94年、松崎明氏(70歳・以下、敬称略)の存在にいち早く注目したノンフィクションライター・小林峻一氏による「JR東日本に巣くう妖怪」という連載記事を掲載。これに対し、JR東日本は中吊り広告の掲示拒否だけでなく、管内にあるキヨスクでの販売拒否という強硬手段に出た。この事件以降、「JR革マル派問題」は“マスコミのタブー”となったのだ。さらにこの記事が掲載されてから約2年後の'96年2月、筆者の小林氏の自宅(神奈川県鎌倉市)に何者かが侵入し、「JR東日本に巣くう妖怪」の取材に協力したJR関係者の名刺や、取材メモなどを盗み出すという事件が発生。警察当局は後に「革マル派の犯行」と断定し、革マル派非公然部隊のアジトを捜索した。ところが、この小林宅侵入事件後、JR東日本内部では、小林氏の取材に協力したJR関係者が次々とパージされ、その中の幾人かは不慮の死を遂げているのだ.....。

JR東日本(東日本旅客鉄道株式会社)は前回、私の質問に対し、次のように回答した。「社員の人事については会社の責任と権限に基づき行っており、労働組合が人事に介入する余地はありません。職場の秩序維持や所属する社員の管理については、会社において日頃から徹底しております」(JR東日本広報部)しかし、このJR東日本の回答を、「全部、ウソだ」と喝破するJR東日本の元運転士(現在もJR東日本の社員)が、まさに目の前にいる。

佐藤久雄氏(49歳)。現在、三鷹駅に勤務する佐藤氏は、6年前まで、JR東日本三鷹電車区で、中央線や総武線のハンドルを握る運転士だった。そしてJR東日本が日頃から徹底しているという職場の秩序維持の“犠牲者”がまさしく、この佐藤氏なのだ。佐藤氏が語る。

「わが社の現役最高幹部の内部告発を読みましたが、まさしくあの記事に書かれたとおりです。JR東日本は革マル派に乗っ取られ、『JR東労組(組合員)にあらざれば、人(社員)にあらず』という風潮がまかり通っている。これまで会社のためを思って我慢してきましたが、もう限界です。私がこの6年間、革マル派が支配する『JR東労組』、そしてJR東労組に乗っ取られた会社から、どんな仕打ちを受けてきたか、お話しします」

